

企業ニュース オリエンタルランド

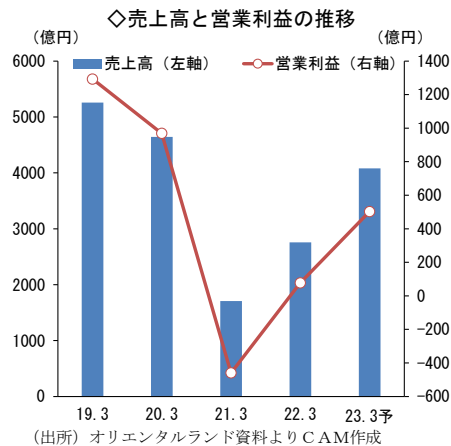
(東証プライム: 4661) <http://www.olic.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

新中期経営計画を発表

テーマパークを中心とした複合リゾートの「東京ディズニーリゾート」を運営している。22. 3期の売上高構成比は、テーマパーク79%、ホテル17%、その他4%。

今回2022～2024年度の中期経営計画を発表、最終年度に営業利益1,000億円以上を目指す。コロナ禍からの回復と、需要の平準化による混雑緩和などの体験価値向上を推進する期間とし、年間入園者数2,600万人（コロナ禍前の8～9割）、入園者1人当たり売上高14,500円レベルでバランスを取る方針。リオープニング、価格戦略の強化を踏まえると物足りない印象だが、東京ディズニーシー新エリア開業後のチケット価格値上げなどに十分に織り込まれていない要素もあり、計画前提上振れの余地が残る。



入園者数回復局面での業績改善に期待

22. 3期の連結業績は、売上高が2,757億円、前期比62%増、営業利益が77億円、同537億円増（前期は460億円の赤字）。売上高、営業利益ともに会社計画を超過、想定より早い段階で入園者数制限を緩和したことが寄与した。入園者数は1,205万人、前期比59%増、入園者1人当たり売上高は14,834円、同9%増。入園者1人当たり売上高においては、変動価格制による高価格帯チケットの構成比が増加したほか、商品・飲食の販売も好調だった。

23. 3期の通期会社計画は、売上高が4,079億円、前期比48%増、営業利益が503億円、同6.5倍。4月25日からパーク内のソーシャルディスタンスを緩和、入園者数の上限を段階的に引き上げる方針で、今期の入園者数は2,000万人、同66%増を見込む。一方、入園者1人当たり売上高は14,318円、同3%減を想定。会社は高単価チケットの構成比は上昇すると予想する一方、商品・飲食販売を慎重にみている模様。また利益面では、入園者数の増加に伴うコストや原燃料コストの増加を見込み、営業利益を保守的に策定している印象。

【株価動向・投資判断】

リオープニング銘柄の1つとして注目。チケット価格のほかパーク内における様々な体験価値の収益化を検討している模様、価格戦略の進展に期待したい。

<4661 OLC 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21. 3	170,581 (▲ 63)	▲ 45,989 (-)	▲ 49,205 (-)	▲ 54,190 (-)	▲ 165.5	26.00
22. 3	275,728 (62)	7,733 (-)	11,278 (-)	8,067 (-)	24.6	28.00
23. 3 予	407,922 (48)	50,251 (550)	50,601 (349)	35,244 (337)	107.6	30.00



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2022/5/6)	18,740 円
年初来高値 (高値日)	24,850 円 (22/3/25)
同 安値 (安値日)	17,680 円 (22/1/7)
予想 P E R (23. 3 予)	174.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,309.1 円
P B R	8.12 倍
予想配当利回り	0.16 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (22. 3)	1.1 %
発行済み株式数	36,369 万株